

第36回神戸電鉄粟生線活性化協議会

日時：平成30年12月20日（火）

午前10時～午前11時

場所：三木市立教育センター 4階 大研修室

○事務局

失礼いたします。皆さん、おはようございます。定刻となりましたので、ただいまから第36回神戸電鉄粟生線活性化協議会を開催いたします。

私は、事務局の三木市都市整備部長の〇〇と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは開会に当たりまして、協議会会長の仲田三木市長から御挨拶を申し上げます。お願いします。

○会長

皆さん、おはようございます。第36回目を迎えます粟生線活性化協議会を開催いたしましたところ、遠方のかたもたくさんおられますが、こうしてお集まりいただきましたことに、厚く御礼申し上げます。

前回は7月24日に協議会を開催させていただきました。その後であります、9月19日に、私ども、国土交通省に赴きまして、国土交通副大臣、事務次官らと面談いたしまして、これからの粟生線への支援について要望活動を行ってきたところであります。

また、神戸電鉄粟生線地域公共交通網形成計画、皆さん御承知のとおり、これを着実に進めていくために、いろんな機関が連携をして、これまで通り協議会のいろいろな事業の実施に取り組んでおるところでございます。

今日は、9月に行いました国への要望活動の実施、また、粟生線の利用状況、また、平成30年度の協議会の事業について御報告をさせていただきたいと思っております。

皆さんから忌憚のない意見をお出しいただきまして有意義な会にさせていただきたいと思っておりますので、どうか最後までよろしくお願いを申し上げまして、冒頭、会長としての挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局

会長ありがとうございました。

それでは、会のほうに入るわけでございますが、はじめに人事異動によりまして、このたびの協議会から新たに参画をいただいております委員の御紹介をさせていただきます。

まず、兵庫県神戸西警察署、交通第一課長の〇〇様です。

○〇〇委員

神戸西警察署交通第一課長の〇〇です。よろしくお願いします。

○事務局

兵庫県小野警察署、交通課長の〇〇様でございます。

○〇〇委員

小野警察署交通課長の〇〇です。よろしくお願いします。

○事務局

よろしくお願いいたします。

続きまして、本日の出欠状況について御報告をさせていただきます。

本協議会は委員25名でございまして、そのうち本日の出席者につきましては、

21名となっております。過半数以上の出席をいただいておりますので、協議会規約第8条第4項の規定によりまして本会議は成立していることを御報告いたします。それでは、早速3「報告事項」に入ります。

これからの進行につきましては、仲田会長よりお願いいたします。よろしく願いいたします。

○会長

それでは、お手元の会議次第に沿って進行をさせていただきます。

3番の「報告事項」に入ります。

報告事項(1)「神戸電鉄粟生線活性化の取組等に対する支援に関する国への要望活動の実施について」、まずは事務局から報告願います。

○事務局

失礼いたします、事務局をしております交通政策課の〇〇でございます。本件につきましては、私のほうから報告をさせていただきたいと思っております。報告に当たりましては、着座の上で失礼をいたします。

それでは、お手元の資料1でございます。冒頭に会長のほうからも御挨拶がございましたけれども、国への要望活動の実施についての御報告であります。

このたび、9月19日になります、国のほうに要望に行ってみようというところであります。1の「要望の趣旨」でありますけれども、そちらに書いてありますとおり、大きく3点について要望したところであります。このたびの要望書の写しにつきましては本日の配布資料という形で、配布をさせていただいておりますので、また、後ほど御高覧をいただきたいと思いますと考えております。

要望の1つ目につきましては、鉄道安全輸送設備等の整備に対する支援制度の堅持・拡充ということで、近年重点的に取り組んでおります、特に車両更新の重点整備などについての要望であります。

要望の2つ目につきましては、形成計画に基づく計画推進事業についての要望ということですので。

3つ目につきましては、粟生線の存続に対する支援という内容を要望という形で行ってまいりました。

2の「要望者」につきましては、仲田会長を筆頭といたしまして、兵庫県の〇〇委員を含め、事務局も合わせまして合計7名という形で要望をしてまいりました。

一番下の4番にありますけれども、「要望活動実績」ということでございます。実際にお出合いをさせていただいて、面会をさせていただきましたかたが7名という形になっております。

それから、次のページになりますけれども、面会はできませんでしたが、要望書をお渡しするという形で要望を行いましたかたが22名ということになっております。

1ページ目に戻っていただきまして、要望者につきましては7名ということでございますが、一番下に書いてありますけれども、藤井比早之衆議院議員におかれましては要望活動を終始同行していただきまして、一緒に要望を行っていただいたという形でございます。

国のほうから、見解というような形の前向きな回答をいただいております。車両更新などにつきましても、省エネとセットになっている取組ということでもあります。国としても、支援できる部分については、応援をしていきたいといったような御見解、それから鉄道安全輸送設備の整備の補助につきましても、引き続き、対応していけると考えているといったような御見解、それから神鉄粟生線につきましては、やはり通

学に極めて重要であるというようなことで、国のほうも認識をしていただいております。そうした中で、鉄道局などにしましても、できるだけ頑張っ努力したいと思うというような前向きな回答をいただいたところでございます。

最後になりますけれども、このたびの国の要望につきましては、非常に数多くの関係者の皆様の御理解と御協力により実現することができました。この場をお借りいたしまして、事務局からお礼を申し上げます、本件についての御報告とさせていただきます。

○会長

ありがとうございました。国への要望活動の実施についてであります、何か御意見とかございましたらお願いいたします。もしなければ、後でもけっこうですので、よろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。

では、次に進ませていただきます。報告事項（２）「粟生線の利用状況」ということで、神戸電鉄さんのほうからよろしくお願いいたします。

○○○委員

資料２に基づきまして、御説明させていただきます。初めてのかたもおられますので、表の読み方から御説明申し上げます。

まず、２の１のところには、２０１８年度の上半期の実績ということで、４月から９月までの利用状況が記載されております。表が３つに分かれておりまして、一番上の「ご利用区間」というところなんですけれども、左側の縦列を見ていただきますと「乗車駅」、何々線と書いておりますけれども、例えば、一番上の粟生線であれば、粟生線に含まれる駅から乗った人が、右側に「降車駅」というのがありますけれども、どこの線のどこの駅に行ったかということで、一番上の行を見ていきますと、粟生線で乗って粟生線で降りたかたが８５万８、９８７人おられたというふうに見えていて、各線の数字が出ているという表になってございます。

２つ目のところでございますけれども、それを基に粟生線で乗り降りしたかたを計算するとこういう数値になりますということで、上半期は３９９万人の御利用があったと。計算式につきましては、それぞれ粟生線の行と列の合計、それを足し合わせたものから、粟生線と粟生線のところだと、それだと２回足してますので、重複しているところを差し引いたもので、その数が求められているという計算の動きを示しています。

また、３つ目の数値ですけれども、これは粟生線に属する駅、各駅でどういう御利用状況があったかというものを書いております。例えば、鈴蘭台西口駅を見ますと、１つ目のところで３万６、３１３という数字がありますが、これは鈴蘭台西口で乗ったかたが粟生線で降りたというそういう移動と、粟生線のどこかの駅から乗ってきて、鈴蘭台西口駅で降りたと、すなわち「乗」も「降」も粟生線内で完結しているかたの御利用が３万６、３１３人ありましたということで、その次に「有⇒粟」という数値を書いています、これは有馬線を経由して粟生線に入ってきたかたで鈴蘭台西口に降りられたかた。その右側は逆に、鈴蘭台西口から有馬線方面に行かれたかたという数字になっておりまして、それぞれを足し合わせたのが「合計」ということになっている。それを上半期の日数で割った「１日当たり」という数値になってまして、その右側は、その人数が全体で占める割合ということで「乗降割合」になっております。

神戸市、三木市、小野市それぞれの合計で見ますと、神戸市での乗降割合が４７．４％、三木市での乗降割合が３６．１％、小野市での乗降割合が１６．５％であったというところであります。

これは、また、見ていただいたらということなんです、これが昨年と比べてどう

だったのかというのが、右のページ、2の2になってございます。

全く同じ表で、差し引きをしたらこうなるというものでございますが、2つ目のところを見ていただくと、昨年度に比べて上半期は19万3,412人という大幅な減少になっているということでございますが、これは右側のほうに「※」を付けておりました、うち12万7,876人、3.1%については自然災害による影響があったとみております。今年は、本当に皆さんの会話の中でも災害が多い年ですねという言葉が合い言葉のようになっておりますけれども、7月豪雨で5日、台風20号で3日、台風21号で2日、台風24号で1日ということで、合計11日運行休止又は中断というようなことで、止めざるを得なかった日数がこの上半期の間に11日ございました。そのうち、粟生線での影響が12万7千人ということで、大きな影響がありましたので、増減の中にはそれが含まれているということで、それを差し引きますと7万人ぐらいの減少ということですので、6か月間で7万人ということは1か月当たり1万人、昨年と比べて減っていると、そういうふうに見ていただいたらなと思います。

あと、各駅の乗降なんですけれども、それが含まれますので、なかなか分析のしづらいところではございますけれども、ちょっと増えている駅だけコメントをさせていただきますと、まず、鈴蘭台西口は全体では減っているんですけれども、粟生線と粟生線の間での乗増が増えているところがございます。これは、下のほうに木津でも同じようなプラスが出ておりますけれども、木津の工業団地の稼働状況がよかったり、あるいは入居者が増えたりしますと、一定の割合で粟生線利用者も増えるという構図になってまして、しかも、みえますと、鈴蘭台エリアの辺りから、パート従業員のただと思われるのですけれども、そういったかたが通勤に利用をされているといった傾向がずっと続いております。

最近、ちょっとみえますと、前は有馬線を越えて神戸方面からも来られるかたが多かったのですが、そういうかたが減ってきて、粟生線のこちら側、三木、小野市域から来られるかたもちょっと増えてきているのかなという、雇用の範囲が広がっているのかなという傾向も、利用状況をみえますと出てきております。

木津については、今申し上げた理由で増えているというところがございます。あと、三木市内に入りまして、広野ゴルフ場前が若干プラス26人、これは6か月で26人増えたということで、1日にしたら1人とか2人とかという話なんですけれども、これは、たまたまみていると、広野ゴルフ場前と三木上の丸の間で定期券を買われているかたが昨年と比べて増えてまして、1人とか2人とかという話なんですけど、そういうものの影響なので、大きな流れの中では、誤差の範囲かなというところがございます。

三木上の丸につきましては、そういったものもあるんですけれども、5月に三木駅の焼失後、テレビの企画などで取り上げられてですね、「レトロヂ」というイベントがあった際に大勢のかたが来られました。その影響もありまして、これだけプラスになっているというところがございます。

あと、榎山ですけれども、榎山につきましては、後ほどの御報告でもありますが、昨年9月よりらんらんバス「匠台ルート」というものを新設していただきまして、工場のかたに積極的に御利用をいただいているということもありまして、定期券の利用者がかなり増えております。それに伴った増でございます。

具体的にどこの区間と申し上げますと、押部谷、三木、市場、小野、粟生というようなところを結ぶ定期券が増えていきます。

ただ、これを詳しく月ごとにみえますと、ちょっと変わってたりもしまして、たぶん工場に行かれるかたが、短期で御利用形態が変わっていて、たぶん集団でどこか

社宅を借りられているのかもしれませんが、それが変わっているのかなというふうにみております。

あと、市場なんですけれども、さきほど申し上げた檜山の件もあるのですが、今年に入って神戸方面に行かれるかたで定期を買われたかたが3、4人、もともと御利用数が少ない駅なので、こういった形でプラスになっているということでございます。そういった要因で増えているということです。

あと、減っているところに関しましては、従来の傾向が変わっておりませんで、自然災害の影響に加えまして、生産年齢人口が減っていつている、いわゆる学生が減ったということと、通勤で神戸方面まで行かれるかたが減っているという、そういった傾向が続いているとそういうふうな状況でございます。

以上でございます。

○会長

ありがとうございました。粟生線の利用状況であります、ここで何か御意見、御質問等ございますでしょうか。

○○委員どうぞ。

○○○委員

三木駅の駅舎が使えなかった期間というのはどれくらいあったんですか。その割に減ってないように思うので、ちょっとそこだけ教えてください。

○○○委員

三木駅の本駅舎のほうですね、下り線のほうの駅舎のほうの影響につきましては、3月4日に火事が発生しまして、うる覚えなんですけれども、翌日には電車を走らせたと思いますが。

○○○委員

反対の線を使いながら。

○○○委員

そうそう、使って。ということですから、その影響は、走らせたのはそうなんですけれども、ただ、下りホームが使えるようになるようには3日ほど掛かったかなと思います。

○○○委員

その乗客への影響は1日くらい、当日だけということ。

○○○委員

いや、3日間ほどの間は減便ダイヤを強いられましたので、それは減りました。ただ、それは3月のことなので、これは4月から9月の間の報告をさせていただいておりますから、この中には影響としては含まれてはおりません。

○○○委員

そういうことか。ありがとうございます。

○会長

ほかに御意見ございますでしょうか。もしあれば、最後にまとめてでもけっこうですので、お願いいたします。

では、次に移ります。報告事項(3)「平成30年度の協議会事業の取組状況について」、「ア」から「オ」までまとめて事務局のほうでお願いします。

○事務局

いつもお世話になっております。三木市都市整備部交通政策課の○○でございます。以下、座って説明させていただきたいと思っております。

そういたしますと、「平成30年度の協議会事業の取組状況について」ということ

で、お手元に資料3と配布資料とさせていただいております「粟生線&バス乗継ガイド」、黄色い冊子をお手元に御用意いただけたらと思います。

まず、この表なんですけれども、一番左側の「基本方針」という縦列、こちらは「神戸電鉄粟生線地域公共交通網形成計画」の基本方針となっております。

右側のほうに移ってまいりまして、黄色の網掛け部分が「事業」、その中に「具体的な取組」を記載しておるといところです。ページの中ほどの縦列にピンク色の網掛けをしている項目、こちらが平成30年度、本年度の取組状況を記載しているといところです。一番右側に参考といたしまして、平成29年度の1年分の実績を記載しているところがございます。

そういたしますと、中身のほうに入らせていただきたいと思います。内容はかなりたくさん記載がありまして、少しかいつまんだ説明になるかと思っておりますけれども、御了承いただけたらと思います。

まず、「事業」のところ、黄色の網掛け①「鉄道とバスの連携強化」というところで、(1)ですけれども「鉄道とバスの広域時刻表の作成」、こちらが今お手元に御用意いただいた広域時刻表「粟生線&バス乗継ガイド」でございます。こちらが、本年度1万5,000部発行させていただいております。せっかくですので、内容のほうを少し見ていただけたらと思います。

まず、「粟生線&バス乗継ガイド」の表紙ですけれども、こちらにつきましては、神戸電鉄開業90周年記念メモリアルトレインの写真を大きく使わせていただいております。真ん中の大きな写真につきましては、高度経済成長期に運行しておりましたオレンジとシルバークレーの塗装の車両、左下には小さな写真になっておりますけれども、戦後復興後に運行しておりましたスプリンググリーンとシルバークレーの塗装の車両、こちらのほうを表紙に大きく使わせていただいたところです。

ページをめくっていただきまして2ページ目から7ページ目、こちらにつきましては「駅からのウォーキングガイド」ということで、神戸市、三木市、小野市の粟生線各駅と周辺観光地を結ぶウォーキングガイドを今回付けさせていただいております。こちらは、従来の時刻表から新たに追加した内容となっております。

8ページ目から15ページにつきましては、従来どおり、粟生線の時刻表でございます。

続く16ページから21ページにつきましては、こちらも従来どおり、各駅から発車するバスの時刻表を掲載しておりますが、駅周辺のマップ等、できるだけコンパクトにまとめまして、レイアウト等の修正も加えまして、時刻の文字は、従来のものはかなり小さかったのですけれども、できる限り大きくするように努めたところがございます。

22ページを御覧いただきまして、こちらが神戸電鉄の車両の紹介となっております。特に、新型車両の紹介、一番下のほうですけれども、こちらについては主な特長等を記載して詳しく説明をさせていただいたといところです。こちらも、従来の時刻表から新たに追加した内容となっております。

その右側、23ページについては、駅前駐車場、パーク・アンド・ライドの説明ということで、パーク・アンド・ライドの説明につきましても、左下のほうに写真を付けさせていただいて、駐車場の割引方法を具体的に説明するなど工夫をいたしました。

裏表紙につきましては、神戸電鉄Q&Aなどを掲載しております。

駆け足ですけれども、こういった形で広域時刻表を作成させていただいたといところの御報告でございます。

それでは、資料3のほうに戻らせていただきます。1ページ目の②ということで、

「交通結節点の強化」、(2)、(4)、(6)と鈴蘭台駅周辺の再開発の状況を記載しております。

(5)につきましては、神戸市様の取組のほうでコミュニティタクシー「おでかけ号」の試験運行の実施状況を記載しております。

ページ下のほう、③「鉄道施設の更新・改良による安全性の確保・輸送サービスの向上」につきましては、昨年度に続きまして、国、県、沿線市の協調補助、あるいは三木市の独自補助の補助予定額、それから、一番下になりますけれども、新型6500系車両の2編成、こちらについては、現在新造中ということでございます。

1ページめくっていただきまして、方針2「まちづくりと連携した地域公共交通網の形成」というところでございます。ページ中ほどの②「観光資源の開発とアクセス手段の確保」というところでございますけれども、こちらにおきましては、ネスタリゾート神戸様と連携をされまして、神戸電鉄様のほうで「電車&プール格安クーポン」を本年度も販売をしております。販売実績といたしましては305枚ということでございました。

ページ下のほう、④-1「交通結節点におけるにぎわいの創出」ということで、(2)でございますけれども、鈴蘭台駅前再開発工事ですけれども、ビル及び橋上駅舎の開業ということで、これは9月25日でございます。それから、三木駅の再生ということで、市独自の寄附制度の創設等、三木駅再生に向けた取組状況を記載しております。

ページをめくっていただけますでしょうか。方針3「地域公共交通の活性化及び利用促進」ということで、①「日常利用に対するモビリティ・マネジメント」の実施ということでございます。(2)「園児・小中学生に対するモビリティ・マネジメントの実施」という項目に分類しておりますけれども、「神鉄トレインフェスティバルの実施」ということで、10月8日に開催をいたしまして、来場者数3,245人ということで、対前年度比で475人増ということで、17.1%増ということになっておりました。たくさんのかたに本年度御来場いただいたというところでございます。

1ページめくっていただけますでしょうか。③「楽しい<非日常>利用に対するモビリティ・マネジメントの実施」ということで、(1)の中に「栗生線乗ろうDAY!プログラム」という項目がございます。こちらにつきまして「神戸電鉄開業90周年記念『メモリアルトレインで“産フェスおの”へGO!』」の実施、こちらについては後ほど詳しく御報告をさせていただきます。それから、「電車に乗ってハッピークリスマス」、つい先日12月16日に開催をしたところですが、参加者数123人ということで、昨年を引き続いて開催をしております。

今後の予定になりますけれども「第14回小野陣屋まつり」、年明け、失礼いたしました、こちらのほう平成30年となっておりますが、平成31年3月9日、3月10日において協議会ブースの出展、それから「山田錦まつり号で山田錦まつりへGO!」の開催についても、こちら平成31年ですが、3月9日、10日に開催をする予定をしております。

ページ下のほう(4)につきましては、「地域との協働による季節や地域らしさを感じられる取組の実施」ということで、引き続き、七夕にちなんだ駅の装飾であったり、列車の運行、クリスマスの装飾列車の運行等、引き続き、実施をしております。

1ページめくっていただけますでしょうか。(5)「沿線外への地域情報等の発信」ということで「神戸電鉄開業90周年記念事業の実施」、さきほど御説明させていただいた「神戸電鉄開業90周年記念『メモリアルトレインで“産フェスおの”へGO!』」に加えまして、現在「栗生線スタンプラリー」も実施中ということで、後ほ

ど詳しく御報告させていただきます。

それから、「神戸市ふるさと納税における返礼品の提供」ということで、「しんちゃんぬいぐるみ（ミニ）」の提供ということも実施されています。こちらは平成30年11月28日から、寄附金額1万円からのかたにつきましては「神戸電鉄1日乗り放題チケット（2枚）」、それから、寄附金額2万円からのかたについては「しんちゃんぬいぐるみ（ミニ）（1体）」の提供ということ、神戸市様の取組となっております。

少し駆け足ではございましたけれども、平成30年度の取組状況の御説明させていただいたところで、個別に詳しく御報告のほうをさせていただきたいと思っております。次第でいきますと「ア」となりますけれども、「らん♡らんバス『匠台ルート』について」、こちらについては小野市様のほうから御報告をお願いしたいと思っております。

○小野市

失礼いたします。小野市総合政策部交通政策グループの〇〇より御説明をさせていただきます。座って御報告をさせていただきます。

資料4のほうをお手元をお願いいたします。平成29年9月より粟生線活性化や市内の就労環境の整備等を目的といたしまして運行を開始いたしましたらん♡らんバス「匠台ルート」は、「神戸電鉄粟生線地域公共交通網形成計画」の基本方針2に掲げる「まちづくりと連携した地域公共交通網の形成」に関連した取組となっております。

月間利用者数の推移につきましては、資料4の6のグラフのとおりになっておりまして、平成30年度に入ってから順調に増加している傾向となっております。また、平成29年9月から平成30年8月末にかけての1年目の年間利用者数は2万9,176人となっております、運行開始時の目標でありました年間3万人をほぼクリアした形となりました。2年目の年間利用者につきましては、当初の目標を上回る約4万2千人の利用を見込んでいる状況となっております。今後につきましても、より利便性の高い運行を検討し、粟生線活性化にもつなげてまいりたいと考えております。

以上、簡単ではありますが、説明とさせていただきます。

○事務局

ありがとうございます。続きまして、資料5でございますけれども、「モビリティ・マネジメントの取組状況について」ということで、御報告させていただきたいと思っております。

資料として5の一番左側に縦に番号を振っておりまして、4番までが前回の協議会のときに実施していた内容となっております。5以降につきましては、それ以降の取組となっております。

6番ですけれども、神戸市様のほうでシルバーカレッジ学生に対するモビリティ・マネジメント、それから、ページをめくっていただきまして、番号の10番ですけれども、こちらも神戸市様におかれまして神戸学院大学の学生に対しましてモビリティ・マネジメントを実施したということ、比較的人数の規模の大きなモビリティ・マネジメントを開催いただいたというところでございます。

それから、12番以降につきましては、三木市におきまして、昨年度も実施してございましたけれども、子育て世帯向けのモビリティ・マネジメントということ、各公民館で開催されております乳幼児学級の保護者、それからその子ども様向けに神戸電鉄開業90周年のイベント等の周知・PRであったり、粟生線サポーターズクラブの概要の説明であったり、それから先般作成いたしました広域時刻表の配布等をして、公共交通の利用促進を促したというところでございます。

ページをめくっていただきまして、16番になりますけれども、小野市様におかれ

ましては、市内6地区の各コミュニティセンターにおいて各自治会から選出されたワーキンググループ委員のかたがたに向けて、モビリティ・マネジメントを実施したというところがございます。

それから、本年度は18番に記載があります、細川町豊かなまちづくり推進協議会、それから三木市ということで、本年度は月に1回、細川町において地域ふれあいバスというバスが走っておりまして、そのバスと路線バスを乗り継いで大型商業施設に買い物等に出掛けます「細川バス体験乗車会」というのを開催をしております。

本年度は、いわゆる日常利用に対するモビリティ・マネジメントというところでは、現状は以上となっております、職場におけるモビリティ・マネジメント、企業団地等の中に入って公共交通の利用を促進するといった取組については、残念ながら現時点では実績はございませんが、引き続き、取組を推進していきたいと考えております。資料5につきまして、説明は以上とさせていただきます。

続きまして資料6でございます。こちらは、「神戸電鉄開業90周年記念『粟生線スタンプラリー』の応募状況について」ということです。本日の配布資料の中に、こちらのイベントのチラシも付けております。御一緒に見ていただきながら、内容を御確認いただけたらと思います。

前回協議会において報告させていただきましたスタンプラリーなんですけれども、実施期間を12月28日、金曜日までといたしまして現在実施中でございます。12月17日、月曜日現在における応募者数につきましては720人ということになっておりまして、応募状況の詳細を下のほうに記載をしているというところなんです。

前回の協議会の報告のときは、まだ事業内容の案ということでございまして、そのときからの変更点としましては、観光スポットについては当初「すずらの湯」様を入れておりましたけれども、「しあわせの村温泉健康センター」とさせていただきます。粟生線の所定の駅につきましても、鈴蘭台駅から西鈴蘭台駅に変更をさせていただいたというところがございます。こちら、12月28日までイベントを実施しまして、応募締切が年明けの1月7日ということで、90名様に神戸電鉄1日フリーパスをプレゼント、その90名様の中から9名様については、神戸市、三木市、小野市の御当地ならではの商品をプレゼントさせていただくということとなっております。

こちらについては、まだ実施期間の途中でございますが、現時点での御報告とさせていただきます。

資料7につきまして、こちらは小野市様のほうから御説明、御報告をお願いいたします。

○小野市

失礼いたします。それでは、〇〇のほうから御説明をさせていただきます。資料7をお手元のほうにお願いいたします。目的といたしましては、「神戸電鉄粟生線地域公共交通網形成計画」の方針3に掲げます「地域公共交通の活性化及び利用促進」の事業として、「小野市産業フェスティバル2018」と連携した記念イベント「メモリアルトレインで“産フェスおの”へGO!」を開催することにより、粟生線の周知・PRに取り組み、更なる利用促進を図りました。

イベントにつきましては、「小野市産業フェスティバル2018」の開催日である平成30年10月20日の土曜日、21日の日曜日のうち、20日の土曜日のみに実施いたしました。

その内容といたしまして、1点目はイベント当日限定で「産フェスおの」特殊ヘッドマーク付きメモリアルトレインの運行を新開地から粟生間において、2往復運行いたしました。

2点目に、「小野市産業フェスティバル2018」の会場内におきまして粟生線活性化協議会特設ブースを設置しまして、鉄道グッズの販売、電車パン及び「しんちゃんぬいぐるみ(ミニ)」の限定販売、大型鉄道模型展示、神鉄開業90周年記念の展示、「しんちゃん&てつくん」との記念撮影、小野高校生による「ぬりえコーナー」の運営、「しんちゃん」のPR活動等を行いました。

また、3点目に、神戸電鉄小野駅構内と「産フェスおの」の会場内の協議会ブースに掲示されたキーワードを集めて御回答いただく、記念クイズを実施いたしました。

その結果といたしまして、電車パンや「しんちゃんぬいぐるみ(ミニ)」の限定販売につきましては各30個が完売、記念クイズにつきましては63名の応募、ぬりえコーナーにつきましても58名のかたに御参加いただきました。

また、「しんちゃん&てつくん」との記念撮影等も御好評をいただいております、粟生線の周知・PRの効果は十分得られたものと考えております。

以上簡単ではございますが、説明とさせていただきます。

○事務局

それでは、資料8については神戸様のほうから御説明をお願いします。

○神戸市

神戸市公共交通課の〇〇と申します。座って説明をさせていただきます。

資料8を御覧ください。「神戸市ふるさと納税を活用した『神戸電鉄駅施設の改修サポート』の実施について」ということで、こちらは計画の方針3「地域公共交通の活性化及び利用促進」に基づく取組となっております。

概要としましては、1928年に神戸電鉄さんが開業されて以来、神戸電鉄さんは神戸市都心地域と西北神地域を結ぶ広域的な鉄道として、市民の生活の足となっております。本年度は、開業90年を迎えられたということで、これを契機にですね、市民のかたですとか、利用者のかた、また、市外のかたで神鉄さんに思い入れがあるかたですとか、そういうかたが鉄道を支える仕組みということで、新たに今回のような取組をしております。括弧内に書いておりますように、寄附に関しては今年度の11月28日より開始しております。

実施内容としましてですけれども、神鉄さんが神戸市内の駅で実施する施設の改修に対しまして、ふるさと納税による寄附金を活用して補助を実施するという一方で、例示で上げておりますように、例えば、待合ベンチの新設や交換ですとか、照明のLED化ですとか、そういったところで補助をしていこうというふうに考えております。

3番目の寄附の方法ですけれども、「有馬線」、「三田線」、「粟生線」の3路線別のコースと、あとはどこでも使ってくださいということで「おまかせ」という4つのコースから選択ができるようになっております。

4番の寄附金額及び返礼品としましては、1万円以上のかたは、さきほど説明がありましたように、「神戸電鉄1日乗り放題チケット(2枚)」、2万円以上のかたに対しては「しんちゃんぬいぐるみ(ミニ)(1体)」ということになっております。

参考ですけれども、今月の12月7日、金曜日時点では寄附の受付口数は11口ということになっております。

報告は以上です。

○事務局

お時間いただきましたけれども、平成30年度の協議会事業の取組状況の御報告とさせていただきます。

以上です。

○会長

報告事項の3番、「ア」から「オ」まで御説明をさせていただきました。これにつきまして何か御意見等がございましたら、挙手にてお願いをいたします。

どうぞ、〇〇先生。

〇〇〇委員

サポーターズクラブのところで、特別会員さんがものすごく増えているんですけど、何か特別なことはあったんですか。

○事務局

粟生線サポーターズクラブにつきまして、特別会員でございますけれども、今年の8月までは、特別会員になっていただいた協力金を三木駅の再生に使わせていただくということで、期間を定めて実施をしております関係で、こちらの特別会員に新たに会員になられたかたがたくさんいらっしゃったということで、会員数が増えております。

○会長

ありがとうございます。ほかに御意見、御質問はございますでしょうか。

なければ、全体についてでもけっこうですけれども、何かありましたら、これまでの全てについても御質問等がございましたら、よろしくお願ひいたします。

〇〇〇委員

神姫バスの〇〇と申します。

事業の取組の3-2のページを見ていただきたいんですけども、A3のペーパーの、こちらの方針2「まちづくりと連携した地域公共交通網の形成」の②「観光資源の開発とアクセス手段の確保」の(1)「観光資源、観光拠点を結ぶバスルートの整備」がございまして、こちらについて取組を進めていければなということで考えておりました、我々バスも非常に厳しい状況でありますので、地域公共交通の活性化及び利用促進を目指しまして、マイカー利用による観光から公共交通利用への転換が図られたり、車を運転できないかた、交通弱者のかたでも楽しんでいただけるような観光モデルコースを作っていきたいなと思っているんですけども、その効果といたしましては、御当地の観光誘客の促進による地域活性化等に結びつくものと考えてます。

例えば、三木市の事例でいきますと、山田錦の郷のほうへ行くツアーとかが非常に好評だったということで、そちらのほうにはすばらしい温泉もある、小野市のほうにも観光地もありますというところで、例えば、我々としまして路線バスで三木のほうから吉川町のほうへ行くバスとかもございまして、既存資源を生かしたモデルコースを作成していきたいと思っておりますので、つきましては、事務局、あるいは神鉄さん等々と相談をさせていただいて、何か一つモデルができればなというふうに考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

○会長

貴重な御意見、ありがとうございます。既存の地域資源、観光資源、三木、小野、神戸にはたくさんありますので、ぜひ、神戸電鉄、また、それぞれの市役所の交通関係のところと連携を取っていただいて、進めていただければと思いますが、事務局、特に何かコメント等がございましたら、ありますか。お願ひします。

○事務局

〇〇委員、貴重な御提言ありがとうございます。

事務局といたしましても、この形成計画の取組に非常にマッチする取組だというふうに考えております。今後、三木市のみならず神戸市、あるいは小野市へのモデルコース、そういったところが作れないかどうか、今後、来年度に向けた協議会事業の予

算等、事業等も検討をしていかないとはいけませんので、また、お力を貸していただき、一緒に協議をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○会長

はい、どうぞ。

○○○委員

それに関連して、神戸電鉄からですけれども、従来からこの協議会で取り上げてきたことではありますけれども、せっかく電車でお越しいただいても、そこから観光施設までが遠いという、そこに課題があって、今、○○委員からいただいたお話というのはそれを補う上で非常に有用な施策ですので、当社としても積極的にやっていきたいなと思っています。

それに加えて、私からの提案というか、意見でございますけれども、すごく立派にこれを作っていたということではありますけれども、電車とバスの連携をよくしていこうという趣旨で作ったものでございますけれども、例えばそういう視点で見たときに、一番最初に観光名所を書いていたんですけれども、ハイキングで行こうとなってるやつですね、例えばバスで行くとどうなるとか、そういうものが視点として入ってないのではないのかなと、また、ちょっとみていくと、小野市さんとか神戸市さんの時刻表にはバスルートが明記されているんですけれども、三木市さんのところは紙面の都合でバスルートが載っていないと。

三木市内のバスを利用しますと、市民のかたがこのバスはどこへ行くんやみたいなのを、運転手さんに聞いておられるところをよく見かけるんですけれども、やっぱり利用してもらおうとすると、そのバスがどこに行くのか、どういうルートを走っているのかというのはお客さんも知りたいところでございますので、できたらそういうところは記載していただいたほうがいいのかという視点で、今後、作られるのであれば、そういったところも踏まえていただけたらなと思います。

○会長

ありがとうございます。バスも電車も共存していただいて、まちを盛り上げていく必要がありますので、よろしくお願いいたします。

利用者目線での乗継ガイドの作成の提案がありました。事務局、いかがですか。

○事務局

三木市の交通政策課の○○です。○○委員、ありがとうございます。

この乗継ガイド、去年から作成をしておりますが、今後、来年度以降、また、作成する際には、貴重な御意見をいただいておりますので、また、お知らせとかさせていただいて、もっといいものに仕上げたいと思っています。

ありがとうございます。

○会長

よろしくお願いいたします。ほかに御質問、御意見ございますでしょうか。

○副会長

せっかく神姫バスさんが来られてますので、ちょっとお願いも兼ねて、匠台ルートが今急激に増えてまして、10月から15人ほど増えてまして、年々増えていくと思うんですね。今運行しているバスがたぶん乗車できないというのが、この半年ぐらい出てきます。そのときに、運転手の確保ができないからあかんということがないように、御協力をお願いしたいなと。非常に私どものほうも、コミバスの増車計画を、1年に1台ずつ増やしていくような計画をちょっと持ってまして、それで一番ネックになっているのは運転手さんの確保。というのは、神姫バスさんの課題でもございま

すので、できるだけいろんな方法を駆使して、うちも神戸電鉄に乗っていただいて、外国人がけっこう増えておりますので、このかたを工業団地に運ぶ、その足の確保をしたいと思っておりますので、御理解と御協力をお願いしたいんですけれども。

○会長

神姫バスさん、いかがですか。

○○○委員

我々、バス業界並びに運輸業界全体で言えることだと思っておりますが、全国的に乗務員不足というところでございます。先立ちまして、この6月には、我々の会社としましては、組織の再編で人材課ということで、人を探すという専門の部隊を創設したところです。徐々に定員に足りるよう採用を頑張っておりますので、なるべく小野市さんの事業に御協力できるように頑張りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○会長

ぜひ、お知り合いで運転手さんをされるかたがありましたら、ぜひ御紹介を。本当に運輸業界、タクシーもそうですし、これからは消防車も救急車も走らせられなくなるのではないかと、将来的な話ですけれど、本当に人手不足と言われておりますので、また、御協力をよろしく願いいたします。

ほかに、ございますでしょうか。はい、どうぞ。

○○○委員

よく聞かれるんですけれども、三木駅の再生というんですか、全体的に、現状で分かっている範囲の中で、三木駅は今後どのような形で計画をされているのか。一生懸命、皆さんこうやって寄附というのか、させてもらったりとか、いろんな形でしてんですけれども、どうなるんだろうということがよく話題に上がりますので、この場で、もし分かっている範囲の中で言ってもらえたらありがたいなと思うんですが。

○会長

ありがとうございます。では、事務局お願いします。

○事務局

失礼いたします。今現在の三木駅の再生に向けた取組の進捗ということでございますけれども、御報告をさせていただきたいと思っております。

今現在、三木駅、その隣接地等があるんですけれども、その地権者等の御理解とか御協力を得ながら用地交渉等を進めているところでございます。夏場頃になりますけれども、別途、三木駅再生のための協議会ということで組織をしておりますけれども、そちらが主体となりまして、地域住民等に対してアンケート調査を実施したところでございます。こうしたアンケート調査の結果も踏まえたところ、やはり駅への寄り付きといいますか、駅前広場ロータリーの整備といったような御意見、御要望が多くございました。今後に向けては、そういった駅前広場の整備に向けて進めていくことになろうと思っております。一方、それと併せまして、新しい駅のシンボルとなるような駅舎、あるいはその駅の利便施設といったようなところの構築、そういったところも併せて今後検討をしていくと、今現在はそういった状況にございます。

○会長

○○さん、もうちょっと踏み込んで。

○事務局

そうしたら、補足のほうをさせていただきます。せんだって私どもの委員会のほうがございまして、想定エリアということで、エリア表示をさせていただきました。御協力をいただけるのはこの範囲だろうということで、その中でこういった絵が描け

るのか、あるいは当然ですね、道路と隣接しておりますので、警察との協議も必要になってくる、そういった協議も含めて現在進めている。併せまして、いわゆるロータリー、あるいは駅舎等の設計にも着手をしたいと考えております。

○会長

あえて補足をしますと、あくまでも予定ですがけれども、31年度、32年度ぐらいで完成できればというところで、よろしいですね。

○事務局

はい。31、32年の2か年で整備のほうを完了したいというふうに考えております。

○会長

よろしいでしょうか。ほかに御意見はございますでしょうか。どうぞ。

○○○委員

ちょっと○○さんに質問なんですけれども、上の丸駅の乗客者数が増えている中で、最近、インスタグラムで栗生線を見ると、けっこう上の丸駅の横の橋梁、橋梁写真がドバツと出てくるんです。そういうふうなインスタあの場所が人気化しているという可能性はないんでしょうかということが1点と、ついでに、つらつらと見てみると、神戸電鉄の写真的な魅力の一つとして、木の電柱というか、木製の電柱が逆にすごく新鮮で、写真に写り込ませて雰囲気のある写真を出して、それを褒めたたえているんですけれども、あの電柱ですね、木製の電柱は、将来的に鉄に代わってしまうのか、ある程度は残していただけるのか、この辺のところを、教えていただきたいんですが。

○○○委員

まず、1点目の三木上の丸、美囊川橋梁を写した写真がよく出てくるということですけど、あそこは鉄道ファンにとっては聖地的なところになってまして、三木城跡から美囊川橋梁を望むような写真というものを東京からも撮りにきたりとか、それは過去からあります。そういうことで、いろんなかたが撮られるので、たくさん出てくるということです。たぶん沿線の中でいいますと、長田の桜と一緒にですね、並ぶほどの人気スポットかなというところですよ。

もう1点目のほうですが、木柱のほうが非常に風情があって、ローカル線ぽくって、いい面もあるんですけれども、安全運行という面からみますと、腐ってもきますし、やはり強度的に弱いところがございます。ですから、基本的にはコンクリートに替えていっているというのが実情でございますけれども、ただ一方で、コンクリートの電柱に替えますと多額の費用が掛かるというところで、栗生線のこの電柱をどうしていこうかというのは経営上の課題になっております。しばらくは木柱をなんとかだましだまし使いながら、景観を残していこうと思っておりますが、将来的にはまだどうするかは地元市さんと協議をさせていただいて考えていきたいということです。

○会長

よろしいでしょうか。ほかにございますでしょうか。どうぞ。

○○○委員

今回の報告でもそうなんですけれども、当社、鉄道開業90周年ということで、1928年11月28日、この日に湊川から有馬温泉の間が開通したと。その翌月の12月18日は有馬口から三田が開通したということで、90周年ということでございます。

それから10年ほど遅れまして、1936年に鈴蘭台から広野ゴルフ場前が開通したのが栗生線の始まりでございます。当時は、三木電気鉄道株式会社という会社

が線路を敷いてということですが、数年後に当社と合併をして今の形態になっていると。それが年々路線を延ばして行って、粟生まで延びたという経緯になってございます。

今年90周年事業をたくさんやってきた中で、沿線各市さんにも御協力をいただいて、当社の歴史を振り返るとともに、今後も残していこうという取組をいろいろとやっていたいております。

ふるさと納税制度を利用した取組であったりとか、従来なかった取組がたくさん増えてきて、皆さんの関心もすごく増えてきていると思います。

90周年の日、11月28日には全駅で当社の幹部が立ちまして、挨拶もさせていただいたということですが、私は鈴蘭台の駅で御挨拶をさせていただきましたけれども、7割ぐらいのかたが返事を返してくれる。おはようございますと言うと、おはようございますと。90周年を分かっているかたは、今日は90周年だねということで声も掛けていただきました。都心部の鉄道会社で同じようなことをしても、なかなかそこまで言ってもらえない。やっぱり地域の鉄道だなというところをひしひしと感じております。

今後も、なんとか厳しい状況ではありますが、路線を維持してまいりたいと思いますので、引き続き、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○会長

ありがとうございます。〇〇さんから神戸電鉄の決意表明がありましたが、ほかによろしいでしょうか。

ありがとうございます。

私、市政運営でいつも「チーム三木」という言葉を使っております。これは市役所だけではなくて、市議会、市民の皆様、また、区長協議会をはじめ各種団体や市内の企業、みんな方向性でいろいろ意見が違ってくるが出てきますけれど、ある程度納得して同じ方向を進もうということで、「チーム」という言葉を使わせていただいているんですけども、これも、ぜひ、国土交通省さん、兵庫県、沿線市、また、神戸電鉄、神姫バス、いろんな団体に加盟していただいております。これも、ぜひ「チーム神戸電鉄粟生線活性化協議会」ということで、御協力をお願い申し上げまして、マイクを事務局に返します。お願いします。

○事務局

会長、どうもありがとうございました。

本日いただきました御意見、特に「粟生線&バス乗継ガイド」の作成については、もう少し工夫を重ねていきたいと考えております。

それでは、これもちまして第36回神戸電鉄粟生線活性化協議会を閉会いたします。委員の皆様におかれましては、今後も粟生線沿線地域の活性化の取組等について、何かと御協力を賜りますようお願いを申し上げます、本日の会を閉じたいと思ひます。どうもありがとうございました。